プロジェクト名	東アジアにおける持続可能な地域づくり －アグロエコロジー（生態農業）への転換に向けた学際的研究－
代　表　者	島根大学・寧夏大学国際共同研究所、所長、一戸俊義
達成に資するSDGs目標	1 (貧困をなくそう), 5 (ジェンダー平等を実現しよう), 8 (働きがいも経済成長も), 9 (産業と技術革新の基盤をつくろう), 10 (人や国の不平等をなくそう), 11 (住み続けられるまちづくり), 12 (つくる責任つかう責任), 13 (気象変動に具体的な対策を), 14 (海の豊かさを守ろう), 15 (陸の豊かさも守ろう), 16 (平和と公正をすべての人に), 17 (パートナーシップで目標を達成しよう)
プロジェクトの意義、成果及び波及効果	島根大学・寧夏大学国際共同研究所は第5次基本合意書（2024年3月-2029年3月）に基づき、西部学術ネットワークにおける学際的研究の推進を目標とし、次の3項目、「1. SDGsに関する課題解決に向けた学際的研究」、「2. 既存産業のグリーン化を目指した技術および政策に関する研究」、「3. 条件不利地域における環境保全と地域発展の両立に関する人文社会および自然科学研究、ならびに両分野が融合した学際的研究」について活動している。 具体的には、日本、中国内陸部および韓国を研究フィールドとした農畜産業における課題解決のため、次の7課題、①島根県島嶼域等における放牧畜産と環境保全(SDGs 9, 14, 15)、②島根県邑南町における有畜複合経営と地域資源利用・物質循環(SDGs 8, 9, 12, 15)、③韓国の住民参加予算と農山村の地域づくり(SDGs 1, 5, 10, 11, 16, 17)、④中山間地域における水田・耕地集積による営農効果(SDGs 8, 9, 15) ⑤持続可能な農業生産のための土壌食物網の指標化(SDGs 8, 9, 13, 15)、⑥アグロ資源利用型持続可能経済発展モデルの構築(SDGs 1, 8, 9)、⑦針葉樹材の新たな用途出現による既存の木材利用への影響の解明(SDGs 8, 9, 15) について、本プロジェクトにおいて学際的研究を行う。 本プロジェクト成果の波及効果として、以下の5点があげられる。 1. 地域貢献：調査対象とした地域・自治体での営農および資源循環の形成による持続可能性の改善が可能となり、地域循環共生圏（ローカルSDGs）の実現に向けた政策形成へつながる。 2. 国際貢献:アグロ資源利用型の地域経済発展政策や市民参加型予算の社会実装等、国際的産学官連携による国際貢献事業が実施可能になる。 3. 海外連携校との国際共同研究の分野拡大と強化が可能になる。 4. 中国における優秀な若手研究者人材の獲得（留学受入）につながる。 5. SDGsを含めた第5次基本合意書の内容と完全に一致しており、SDGs達成に関する学術論文を10編公表することによって、本研究所の中国におけるプレゼンスを質・量ともに向上させることができる。 なお、参加メンバーは共同研究所スタッフ、兼任または客員研究員である。